

サケ・マス増殖管理推進事業調査

2) サクラマス（抄録）

植村 康

主要港における市場調査

サクラマス漁期の 2002 年 1～6 月に大畑及び深浦市場の各漁業協同組合に委託して、漁獲サクラマスの標識魚を調査した。鰭カット標識魚の混入率は、大畑が 2.19%、深浦が 0.68%であった。鰭カット部位は多様であったが、大畑は脂鰭＋右腹鰭カット標識魚が 52.8%、深浦は脂鰭カット標識魚が 62.6%を占めた。

幼魚混獲調査

2002 年 4～6 月に日本海側の岩崎村黒崎から太平洋側の東通村尻労の県内 6 地区において、定置網で混獲されたサクラマス幼魚について、漁業者の協力を得て、サンプルを採集・保存してもらい、水産試験場に回収後、体サイズや標識、雌雄比、胃内容などを測定した。採集尾数は合計 223 尾であった。放流直後のサクラマス幼魚標識魚が全部で 32 尾採集された。内リボンタッグ標識魚は 3 尾で、岩手県 1 尾、秋田県 2 尾であった。他は鰭カット標識魚であった。腹鰭及び胸鰭カット標識に再生がみられた。再生状況を観察した 17 尾中 13 尾が再生を開始していた。

雌雄が判別した 207 個体の内、雌は 93.7%を占めた。胃内容ではイカナゴ稚魚の摂餌が多かった。太平洋側の尻労では、他に端脚類、アミ類を摂餌していた。全く摂餌のない個体が全体の半数を占めた。採集尾数 169 尾と多かった尻労で、摂餌 71 個体の摂餌率は、0.01～4.59%の範囲で平均 2.17%であった。

沿岸分布回遊調査

サクラマス漁期の 2003 年 1～6 月に、県内漁業者から報告のあったサクラマスのリボンタッグ標識魚の放流元は、北海道 241 尾、秋田県 11 尾、山形県 3 尾であった。この内秋田県 1 尾、山形県 3 尾は放流直後の幼魚であった。青森県はリボンタッグ標識魚を放流していないため報告はなかった。

発表誌名（予定）：平成 14 年度さけ・ます資源管理・効率化推進事業調査報告書

平成 年 月 青森県